

資料提供年月日	令和3年2月10日	
問い合わせ先	課名	環境事業課
	電話	直通 086-803-1293 内線 3972
担当者	職名・氏名	課長 見平 孝行
	職名・氏名	課長代理 岡崎 功

広 報 連 絡

<市長記者会見資料>

- 1 件 名 家庭から排出されるプラスチックごみ
～資源化物として一括回収・リサイクル～
- 2 趣 旨 地球温暖化による気候変動の影響により、自然災害が増加していることから、脱炭素社会の実現を目指す具体的な取り組みとして、令和5年度から、現在焼却処理しているプラスチックごみの分別回収・リサイクルを行う予定です。

家庭から排出されるプラスチックごみ（プラスチック製容器包装・製品） の分別回収・リサイクルについて

○背景

- ◆地球温暖化による気候変動の影響により自然災害が増加していることから**脱炭素社会の実現**を目指す必要がある。
- ◆国がプラスチックごみをリサイクルして循環利用するため「**プラスチック資源循環促進法案**」を通常国会に提出。
2022年度の施行を目指している。

○目指す方向



葉子袋



プラスチック製
容器ボトル

プラスチックごみを可燃ごみとして焼却している。



プラスチック資源としてリサイクル



バケツ
洗面器



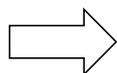
プラスチック製品

○スケジュール

- 令和3年度～4年度 分別収集・処理方法の検討
選別施設の確保（事業者の選定）
市民への周知（排出方法・排出日）
- 令和5年度 **プラスチックごみのリサイクルの開始予定**



分別回収する



選別（リサイクルできな
いものを取り除く）



圧縮（押し固めてかたまり
にして保管する）



リサイクル工場

○効果 家庭ごみの組成分析調査結果より推計される可燃ごみ中のプラスチックごみ約19,000トンを完全にリサイクルできた場合、約52,000トンのCO₂を削減することができる。

【参考】CO₂削減量：約52,000トン ※環境省マニュアルより推計

可燃ごみ減少量：約19,000トン ※可燃ごみ中のプラスチックごみ量から推計